

7. 衣料害虫の研究 (第2報)

被服材料に対するイガの産卵について

奈良女子大 辻井 康子

1. 羊毛害虫のうちイガについて、その成虫が産卵を行なう場合に繊維の種類ならびに同一繊維で表面状態に相異のある織物に対して選択性があるかどうかをしらべようとして本実験を行なった。

2. 8種の異なった繊維の平織の布(綿・絹・羊毛・レーヨン・スフ・アセテート・ポリビニールアルコール系・ポリアミド系・ポリアクリル系)を用いて、これらを20cm×15cmの箱の中へ乱塊法により場所の組合せ30組をつくり、30°C 70%RHの暗下において、それぞれに5対の成虫を入れ、5日後の各布における産卵数を数えた。

3. 産卵数はウールがもっとも多く、スフ・ポリアクリル系がこれにつぎ、ポリアミド系・絹には少ない。このことは同じ平織でもウール・スフ・ポリアクリル系等は表面がやや毛ばだっており、ポリアミド系・絹は表面が平滑である。かかる点が産卵条件を左右する因子とも考えられるので、更に同一繊維で表面状態の異なった布等について産卵状態を検討中であるので合せて報告する。